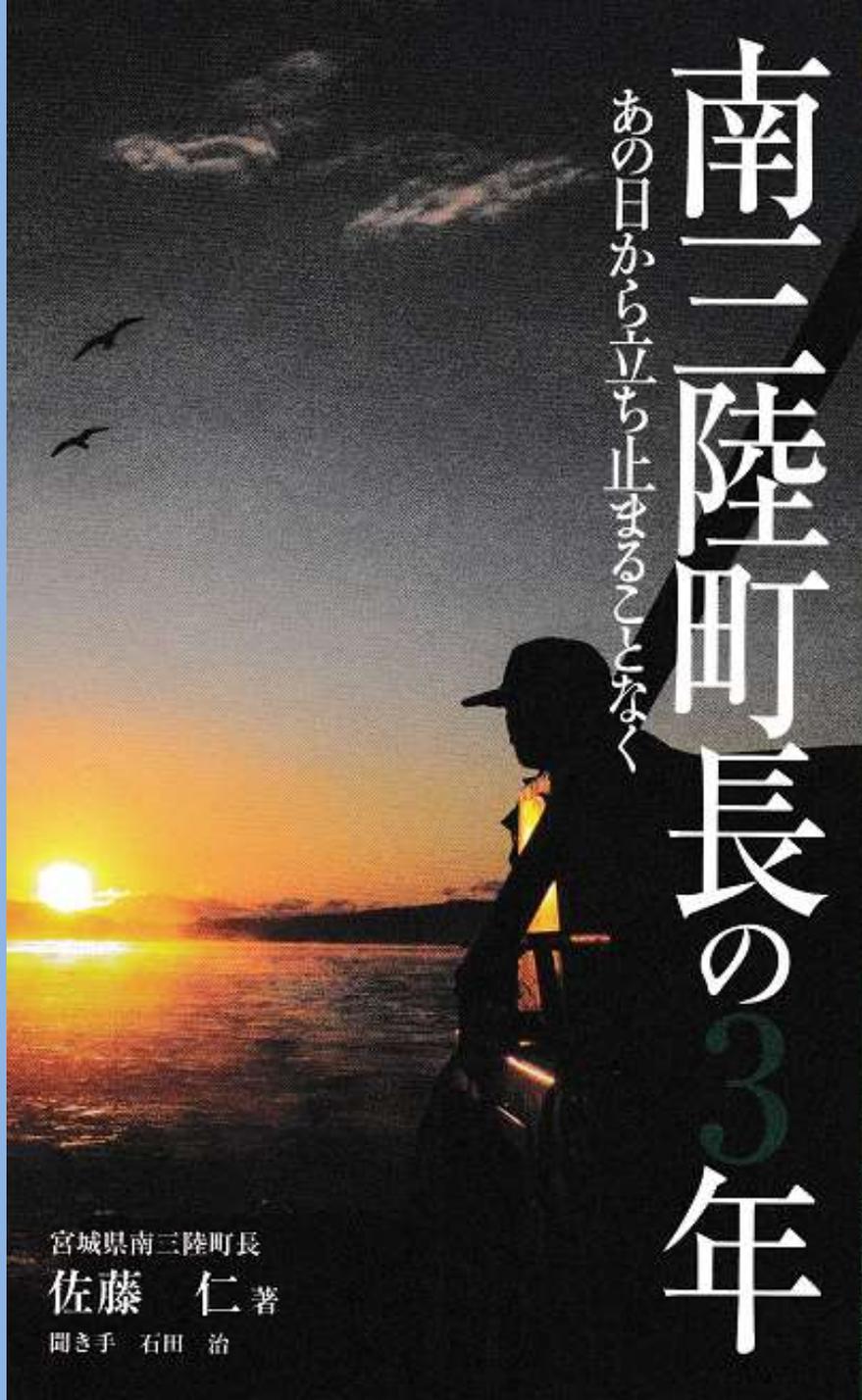


南三陸町長の3年

あの日から立ち止まることなく



宮城県南三陸町長
佐藤 仁 著
聞き手 石田 治

南三陸町長による回顧談

* 1960年チリ地震津波の経験

旧志津川町を襲った津波の高さは5.5m, 当時は防潮堤もなく41人が犠牲に. その経験から5.5mの防潮堤を築き, 記念日(5/24)に毎年避難訓練を実施してきた. 今回の犠牲者は800人超.

* 今回の津波高さは15.7m

防災対策庁舎で生き延びたのは防災担当職員ら40人以上のうち町長など10人のみ.

* 1万人が安否不明の謎?

人口17,666人, 避難所の人数7,500人から推定された1万人行方不明は報道機関の早とちり. 町長は直ちに否定したが, そのことが外部に伝わらず大きな謎となっていた.

* チリ政府からモアイ像が

チリとの友好と防災のシンボルであったモアイ像が津波で流され, 震災後に町を訪れたチリ国大統領の好意でイースター島で彫られた本物のモアイ像がやって来た.

* 復興に制度の壁

制度に復興を合わせるのではなく, 復興に制度を合わせてもらわないと復興は進まない! 政争に貴重な時間を空費する中央政府に激怒.

* 地域コミュニティーの崩壊

震災は本当に残酷だった. コミュニティーを根にこそぎに破壊してしまった. 住宅の高台移転と商業ゾーンの嵩上げで再興を!

さんさん商店街

志津川中学校

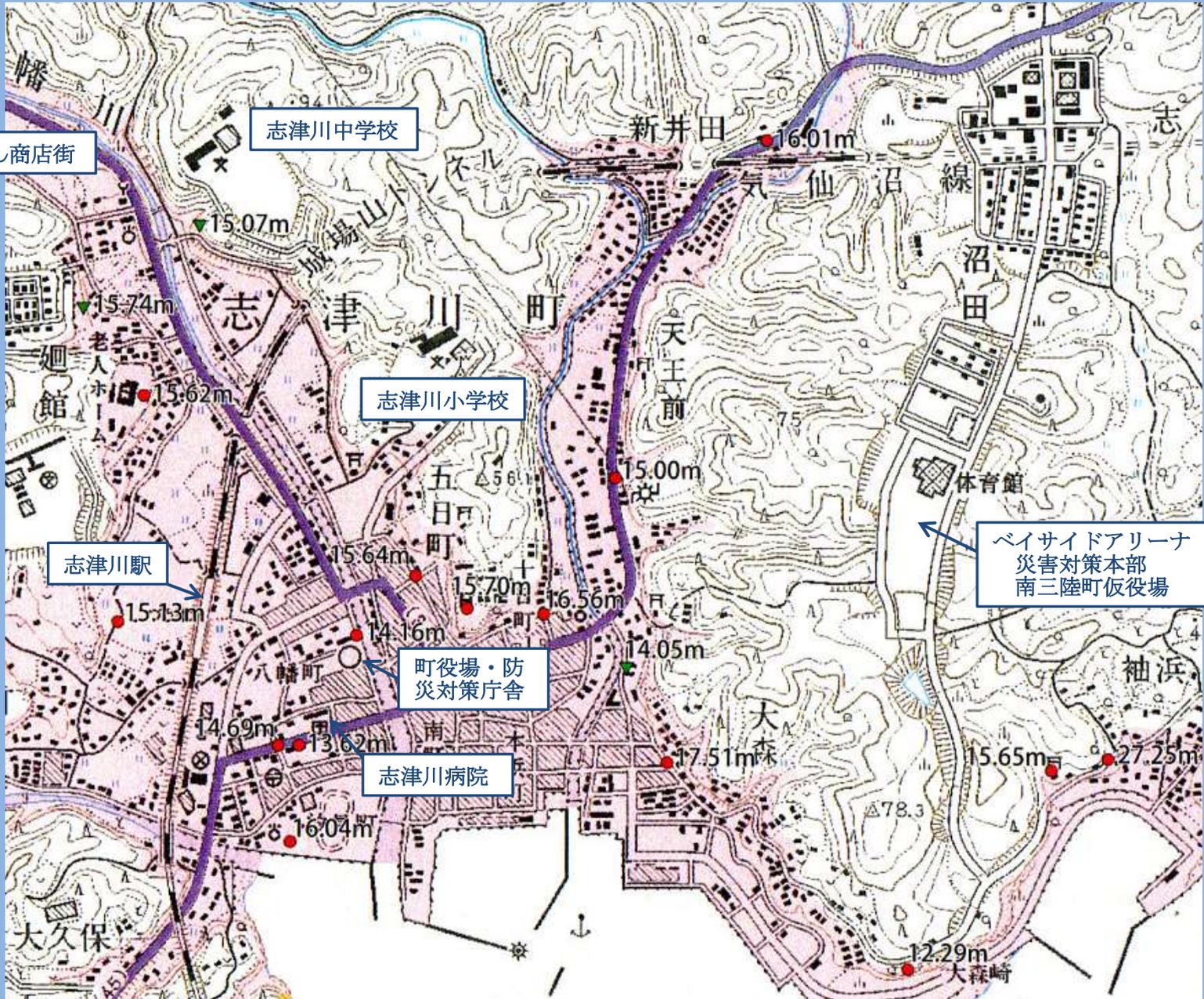
志津川小学校

志津川駅

町役場・防
災対策庁舎

志津川病院

バイサイドアリーナ
災害対策本部
南三陸町仮役場



南三陸町志津川地区の津波浸水状況

原口・岩松：東日本大震災津波詳細地図(古今書院)に加筆

防災対策庁舎

役場本庁舎2階で定例町議会の最中、閉会挨拶で「宮城県沖地震に備えて安心安全な町づくりを一層進めて」と話しているところで地震が発生。

1階の町長室で防災服に着替え、隣接する防災対策庁舎2階の危機管理室へ（防災対策庁舎は宮城県沖地震とそれに伴う津波が発生した場合の危機管理の中核として1995年阪神大震災の後に建設）。

危機管理室に入ったのは地震の10分後で、津波の到達予想時刻まであと4～5分しかないと言う状況。直ちに“三号配備（大津波警報発令に伴う最大級の配備）”に従い40人以上の防災関係の職員が危機管理室へ。

津波高さ予測が6mから10m超に変更されたことは情報が錯綜して伝わらず、もはや高台への避難は困難に。

結局、助かったのは町長を含め10人のみで、町職員36人が犠牲に。役場職員の遺族から告訴状が提出される。



南三陸町の モアイ像

取り敢えず
さんさん商店街
に設置

撮影：2013. 11. 2.



津波が生んだ絆

南三陸町とチリを結ぶモアイ像の歴史は1960年まで遡ります。

この年、チリはマグニチュード (M)9.5の大地震に見舞われ、1,600人超の人々が犠牲となりました。

この地震は太平洋を隔てた日本にも津波被害をもたらし、南三陸町でも41人が亡くなりました。

それから30年後の1990年、津波災害を忘れず、南三陸町民の防災意識を高めるため、

南三陸町では記念行事を計画。翌年

「友好と防災のシンボル」としてモアイ像が海岸沿いの松原公園に設置されました。それ以後、この像は20年間余り南三陸町から防災のシンボルとして愛されてきました。

モアイ像の町を復興

しかし、2011年3月11日の東日本大震災で南三陸町は甚大な被害を受けました。モアイ像の胴部は記念塔に残りましたが、2mの頭部は流出し「松原公園」の一角で発見されました。地元の志津川高校では、震災前から授業の一環としてモアイ像を町おこし・防災のシンボルとして活用するため、『南三陸モアイ化計画』をスタートさせていました。しかし、その矢先に起きたのが東日本大震災です。震災後、瓦礫集積場となった松原公園に無傷で残っていたモアイ像の頭部は、地元の志津川高校生徒の強い希望により、同校の敷地内に移設されました。そして志津川高校の生徒たちが今、町の復興にモアイを役立てようとしています。

モアイ~未来に生きる

志津川高校の生徒の想いがチリの人を動かす

日智経済委員会チリ側委員会の関係者は、ESPERANZA(エスペランサ/希望)委員会を組織し、日本と関係の深い企業からの義捐金を被災地に贈ろうとしていましたが、南三陸町のモアイ像が倒壊したこと、志津川高校の生徒達がモアイ像をイメージにしてキャンペーンを行っていたことを知り、イースター島で制作する新しいモアイ像を贈るアイデアを2011年11月に南三陸町を訪れ伝えました。

町がこの申し出を受け入れたことで、委員会はイースター島長老会にこのプロジェクトへの協力を求めたところ、島側は高校生のモアイへの気持と、日本人がかつて島のモアイ復旧に尽くしたお礼の意味をこめ、門外不出のイースター島の自然石を使い、現地彫刻家の手による製作を無償で引き受けることを申し出ました。2012年3月、チリ共和国のセバスティアン・ピニェラ大統領が、弔意を表すため来町し、被災状況を視察、チリ国民からの応援の証、復興の希望としてモアイ像を寄贈することを改めて約束しました。生徒たちの想いがプロジェクトを再開し、遥か海を超え、チリの人々の心を動かすことになったのです。



モアイ像のある 南三陸町の さんさん商店街

撮影：2013. 11. 2.



南三陸町の中心部(志津川地区) 中央奥に見える台地は嵩上げ工事の一部か? 右端に防災対策庁舎(手前)と志津川病院(奥)が見える。

撮影 : 2013. 11. 2.